

令和5年度 デジタル田園都市国家構想交付金活用事業



MAIBARA CITY SALES

健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト（3/5年目）

横連携

県：事業連携

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額：2,204千円（事業費5,070千円）

【目指す将来像】

- ・ピワイチやピワイチプラス等の人気の高まりにより、琵琶湖畔から内陸部への流れが生まれている。
- ・幅広い客層が県内でのサイクリングをゆくり、長く楽しむことができ、その中で感じられた健康長寿を育む滋賀の暮らしや食、文化といった魅力の数々を旅人自らが拡散する好循環が生み出されている。
- ・旅行者自らの旅のスタイルに合わせて健康でエコな交通手段を選択できるように、サイクルステーションや二次交通基盤、雨天時のバックアップ等が整備されている。
- ・多くの人がサイクルツーリズムを選択することで環境負荷の低いサスティナブルな観光への転換が進むとともに、サイクリングによる旅行者の健康維持にもつながっている。

令和5年度の取組

- 滞在型サイクリングイベント
（スタンプチャレンジ、じゃんけんライド、ゲレンデライドの開催）
- 伊吹山ライブカメラ・伊吹山特設サイトによる魅力発信
- ジャパンエコトラック普及啓発
英語版ルートマップの増刷等



【じゃんけんライド】

重要業績評価指標（KPI）

※滋賀県全体のKPI （前年比から算出）		開始時点	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
健康でエコなマイクロツーリズム による経済効果の増加額	KPI（百万円）	—	400	279	139	139	139
	実績（百万円）	—	-1,066.2	469	2076	—	—
サイクルツーリズムの自転車 利用に伴うCO ₂ 削減の増加量	KPI（t-CO ₂ ）	—	562	393	193	193	193
	実績（t-CO ₂ ）	—	-343	948	4099	—	—
女性・ファミリー向けサイクリング 体験イベント参加者の増加人数	KPI（人）	—	300	1,150	400	450	500
	実績（人）	—	756	976	1998	—	—

健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト

■最終KPI

- ・健康でエコなマイクロツーリズムによる経済効果の増加額
R5目標:139百万円 実績:2,076百万円 → **達成**
- ・サイクルツーリズムの自転車利用に伴うCO₂削減の増加量
R5目標:193.0t-CO₂ 実績:4099.0t-CO₂ → **達成**
- ・女性・ファミリー向けサイクリング体験イベント参加者の増加人数
R6目標:400人 実績:1998人 → **達成**

【プラス評価】

- ・本市の強みである豊かな自然を活かした観光誘客を促進する取組として、サイクリングイベントの開催、また伊吹山ライブカメラや伊吹山特設サイトでの情報発信等を通し、健康でエコなマイクロツーリズムの推進、内陸部への誘客、様々な年代・多様な層への訴求、滞在時間の増加を図ることができた。

滋賀ならではの価値ある資源と観光を掛け合わせてつくる 「シガリズム」推進プロジェクト（2/3年目）

横連携

県：事業連携

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額：6,083千円（事業費12,167千円）

- 【目指す将来像】＊シガリズムとは…コロナ後を見据えた新たな時代の流れに対応し、自然と歩みをそろえてゆったり、丁寧に暮らしてきた滋賀の時間の流れや暮らしを体感し、心のリズムを整える観光スタイルのこと。
- ・行政や民間等の多様な主体が連携することで琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境、多様な歴史・文化、地場産業、暮らしそのものについて、一層魅力を高めながら有効活用することができている。また、観光のみならず地域の幅広い産業との相乗効果を発揮することで、地域経済の活性化にもつながっている。
 - ・自然環境や歴史文化等の保存と活用の好循環が図れている。また、環境負荷の低減と地域経済活性化のバランスがとれた持続可能な産業が創出できている。
 - ・地域住民との交流を通じ、何度も滋賀を訪れる滋賀ファンを増やすことで交流人口、関係人口を増加させ、住民自らの地域への愛着や誇りの醸成につながる地域づくりができている。

令和5年度の
取組

- ☐ 動画コンテストの開催
- ☐ 古民家を活用したDIY体験教室、動画作成
- ☐ 米原駅東西自由通路企画展示
- ☐ 体験型観光プログラムの造成支援
- ☐ インターネットサイトの運営
- ☐ 空き家相談会の開催
- ☐ 周遊観光ツアーの新規造成支援
- ☐ 広域周遊観光の促進



【DIY体験教室】

重要業績評価
指標（KPI）

※滋賀県全体のKPI （前年比から算出）		開始時点	R4年度	R5年度	R6年度
観光消費額	KPI(億円)	－	324	330	330
	実績(億円)	1,328	152	224	－
シガリズム体験交流 コンテンツの売上額	KPI(百万円)	－	1	3	2
	実績(百万円)	0	0.71	4.88	－
本事業で新たに創出された 観光コンテンツ数	KPI(本)	－	64	64	64
	実績(本)	0	67	64	－
県外観光客リピーター率	KPI(%)	－	2	3	3
	実績(%)	64.8	7.5	-0.1	－

滋賀ならではの価値ある資源と観光を掛け合わせてつくる「シガリズム」推進プロジェクト

■最終KPI

- ・観光消費額
R5目標:330億円 R5実績:224億円 → **未達成**
- ・シガリズム体験交流コンテンツの売上額
R5目標:300万円 R5実績:488万円 → **達成**
- ・本事業で新たに創出された観光コンテンツ数
R5目標:64本 R5実績:64本 → **達成**
- ・県外観光客リピーター率
R5目標:3% R5実績:-0.1% → **未達成**

【プラス評価】

- ・観光入込客数が201万人で前年度比109%となり、コロナ前の令和元年度の186万人を上回った。
- ・情報発信を強化するため、シティセールスサイトの運営、動画コンテストの開催を通じて本市の魅力を発信し、まちの情報発信力の向上・シビックプライドの醸成を図るとともに、米原ならではの暮らしや生業を体験するプログラムを開発することができた。

【マイナス評価】

- ・日帰り観光が86%を占めており、宿泊滞在型観光の促進が継続的な課題となっている。

地域資源を活かした多様な人材による共創型課題解決プロジェクト (1/3年目)

横連携

県:事業連携

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額:1,100千円(事業費2,200千円)

【目指す将来像】

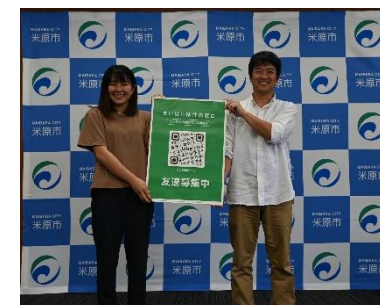
- ・人口減少、少子高齢化に伴う地域の課題が、若者・よそ者など多様な人材や団体等の関わりによる「ソーシャルビジネス（社会的起業/企業）」の創出等を通じて解決され、持続的で魅力的な地域づくりにつながっている。
- ・そのことが、多様な人材や団体等に「滋賀県が選ばれる理由」となり、移住、多地域居住、副業・兼業等働き方の変化と相まって、自分が活躍できる場として、ソーシャルビジネスの担い手となる人材や団体等が継続的に供給される環境が生まれている。

令和5年度の 取組

- ☐ 現地見学会「移住見学ホリデー」の開催
- ☐ 移住の窓口公式LINEアカウントの開設
- ☐ 移住促進ポータルサイトの運営
- ☐ まいばら暮らしの小冊子作成



【移住見学ホリデー】



【公式LINEアカウント】

重要業績評価 指標 (KPI)

※滋賀県全体のKPI		開始時点	R5年度	R6年度	R7年度
地域課題解決プロジェクト 組成数	KPI(件)	—	5	7	7
	実績(件)	—	9	—	—
プロジェクトにかかわる人数	KPI(人)	—	30	70	70
	実績(人)	—	38	—	—
プロジェクトにかかわる 中間支援団体数	KPI(団体)	—	5	11	11
	実績(団体)	—	5	—	—
滋賀県の知名度向上 (魅力度ランキング)	KPI(位)	—	-1	-1	-1
	実績(位)	38	-2	—	—

地域資源を活かした多様な人材による共創型課題解決プロジェクト

■最終KPI

- ・地域課題解決プロジェクト組成数
R5目標:5件 R5実績:9件 → **達成**
- ・プロジェクトにかかわる人数
R5目標:30人 R5実績:38人 → **達成**
- ・プロジェクトにかかわる中間支援団体数
R5目標:5団体 R5実績:5団体 → **達成**
- ・滋賀県の知名度向上(魅力度ランキング)
R5目標:37位 R5実績:36位 → **達成**

【プラス評価】

- ・地域の様々な人々や組織と協力し、移住見学会の開催や相談窓口を設けるなど、市に興味を持つ人々と地域をつなぐ環境を整えることができた。
- ・移住を検討されている方の関連事業への参加や空家バンクへの利用者登録が促進(8件増加)された。
- ・継続的な移住相談が4件増加し、そのうち2件は年度内に県外からの移住へとつながった。

持続可能な地域農業の実現に向けて ～米原市スマート農業推進プロジェクト～（1/3年目）

市単独

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額：1,369千円（事業費3,064千円）

【目指す将来像】

・ICT、IoT、AI等の先端技術の活用による「スマート農業」の導入・普及の推進を通じて、作業の効率化、省力化、収益性の向上を図るとともに、未来の担い手としてスマート農業技術を使いこなす人材を確保・育成し、「持続可能な未来志向型の地域農業の実現」を目指す。

令和5年度の
取組

- スマート農業視察会の実施
- スマート農業勉強会の実施
- スマート農業技術導入支援補助



【スマート農業視察会】

重要業績評価
指標（KPI）

※滋賀県全体のKPI (前年比から算出)		開始時点	R5年度	R6年度	R7年度
農作業時間の縮減	KPI(%)	－	10	15	20
	実績(%)	－	0	－	－
スマート農業技術の 導入件数	KPI(件)	－	3	3	3
	実績(件)	－	3	－	－
スマート農業技術の導入件数 の内、重点目標(若手農業者(54 歳以下)、環境保全型農業へ取 り組む者)の件数	KPI(件)	－	1	1	1
	実績(件)	－	3	－	－
スマート農業視察会の 参加者数	KPI(人)	－	12	20	24
	実績(人)	－	27	－	－

持続可能な地域農業の実現に向けて～米原市スマート農業推進プロジェクト～

■最終KPI

- ・農作業時間の縮減
R5目標:10% R5実績:0% → **未達成**
- ・スマート農業技術の導入件数
R5目標:3件 R5実績:3件 → **達成**
- ・スマート農業技術の導入件数の内、
重点目標(若手農業者(54歳以下)、環境保全型農業へ取り組む者)の件数
R5目標:1件 R5実績:3件 → **達成**
- ・スマート農業視察会の参加者
R5目標:12人 R5実績:27人 → **達成**

【プラス評価】

- ・スマート農業視察会やスマート農業勉強会を開催し、農業者の意識啓発・学びの場を創出した。
- ・スマート農業技術の導入支援を行うことで、農作業の省力化、効率化及び生産性の向上が見られた。

【マイナス評価】

- ・交付金を活用しスマート農業技術を導入したが、年度内に実際の活用まで実施できなかった。

小中学校のICT教育推進事業（システム導入）

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額:0円
 (【参考】R4年度歳入額:71,629千円(事業費217,800千円))

【目指す将来像】

- 全ての小中学校の校務系ネットワークを令和3年5月に完成した本庁舎に集約し、授業系ネットワークの回線に掛かる通信負荷の分散が図れている。
- 通信環境がない特別教室等にアクセスポイントを設置し、すべての教科でICT教育が実施できる。
- 教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上が図れている。
- 統合型校務支援システムの導入により、データの蓄積・共有を行い、データの相互流通性が向上することで、関係部署が連携して課題等に取り組んでいる。

重要業績評価 指標 (KPI)

		R4年度	R5年度	R6年度
学校間または教職員間で情報共有した件数	KPI(件)	システム導入	15	30
	実績(件)	完了	13	—
利便性に関する教職員満足度(10段階)	KPI(段階)	システム導入	6以上	7以上
	実績(段階)	完了	6.3	—
授業等に関するデジタル活用状況報告件数	KPI(件)	システム導入	6	15
	実績(件)	完了	15	—
回線速度改善	KPI(%)	システム導入	5	維持
	実績(%)	完了	-5	—

小中学校のICT教育推進事業

■最終KPI

- ・学校間または教職員間で情報共有した件数
R5目標:15件 R5実績:13件 → **未達成**
- ・利便性に関する教職員満足度(10段階)
R5目標:6段階以上 R5実績:6.3段階 → **達成**
- ・授業等に関するデジタル活用状況報告件数
R5目標:6件 R5実績:15件 → **達成**
- ・回線速度改善
R5目標:5% R5実績:-5% → **未達成**

【プラス評価】

- ・システム導入により、学校や学級運営に必要な情報や児童生徒の情報を一元管理・共有することによって、教職員の業務の効率化・負担軽減を図ることができた。
- ・校務ネットワークの通信速度が大幅に改善した。

【マイナス評価】

- ・システムの本格運用を始めて約1年経過し、「ほぼ毎日」システムを使う教職員が過半数以上を占めるが、情報共有という点では積極的な意見は少なかった。

公共施設利便性向上（予約システム導入）

市単独

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額: 11,250千円(事業費231,000千円)

【事業概要】

・市内の社会教育施設、スポーツ施設等、約40施設の申込みや予約状況確認をオンライン上で実現させる。これにより、これまで各施設の利用者等に負担を強いてきた当該施設への事前予約に伴う往復移動、書類記入などといった手間が軽減され、利便性の向上が期待されます。

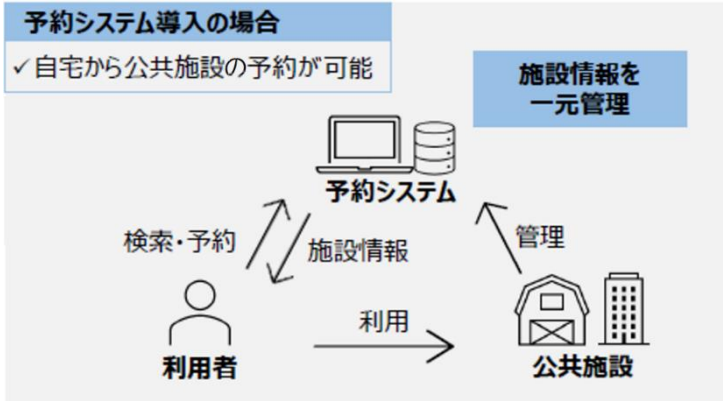
具体サービス

【利用者向け】

□利用者は、スマートフォン等からオンラインで公共施設一覧の検索、空き状況の確認、施設の利用申請が可能となる。また、予約、抽選申込、予約キャンセル、備品の変更などについても実施可能となる。

【管理者向け】

□オンラインでの施設利用申請をシステムで一元管理が可能となる。
□利用者ごとの利用金額の計算、納付書の発行、利用履歴の確認等についても、補助機能により利用可能となる。



重要業績評価
指標（KPI）

※滋賀県全体のKPI (前年比から算出)		R5年度	R6年度	R7年度
オンライン申請割合	KPI(%)	30	50	70
	実績(%)	—	—	—
システム利用者の満足度	KPI(ポイント)	3	3.5	4
	実績(ポイント)	—	—	—
公共施設利用者数の増加	KPI(増加割合%)	5%増	10%増	20%増
	実績(増加割合%)	—	—	—

公共施設利便性向上（予約システム導入）

■最終KPI

・オンライン申請割合

R5目標:30% R5実績: -

・システム利用者の満足度

R5目標:3ポイント R5実績: -

→

※R5年度末の導入となったため、
すべて未計測

・公共施設利用者数の増加

R5目標:5%増 R5実績: -

【プラス評価】

・施設利用者の書類記入等の手間が軽減され、利便性の向上が期待される。

【マイナス評価】

・システム実装が予定よりも遅れた。

コンビニ交付サービス積極活用事業

市単独

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額: 2,065千円(事業費7,132千円)

【事業概要】

・コンビニ交付の増強および主要な市庁舎窓口でのらくらく窓口交付サービス導入など、コンビニ交付サービスの積極活用により、市民目線による関連手続の標準化および手書省略化ならびに庁内手続の簡素化を推進する。

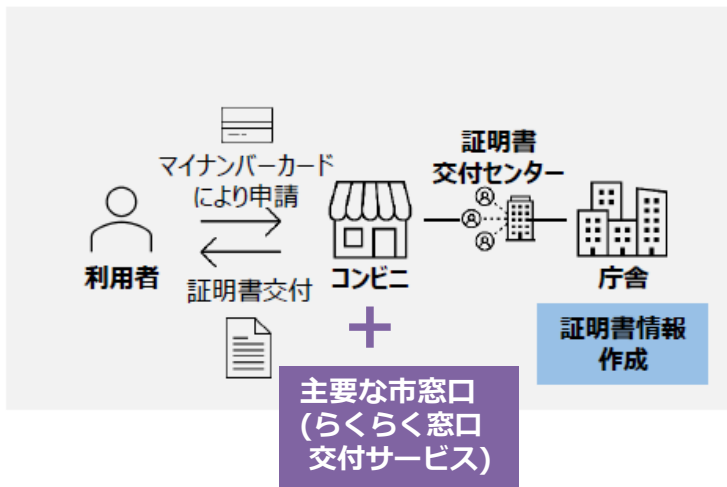
具体サービス

【コンビニ交付 対象書類および対象施設の増加】

- 住民票記載事項証明書をコンビニ交付サービスの対象書類に追加するよう改修作業を行う。
- 現在は本市証明書の発行対象外となっている施設（事業者）で発行可能となるよう改修作業を行う。

【らくらく窓口交付サービスの導入】

- 主要な市庁舎の窓口でらくらく窓口交付サービスを導入し、コンビニ交付機で行う申請が市民にとっての標準申請となるよう体制構築を行う。



重要業績評価指標 (KPI)

※滋賀県全体のKPI (前年比から算出)		R5年度	R6年度	R7年度
諸証明のコンビニ交付率	KPI(%)	20	30	40
	実績(%)	30.57	—	—
市民の満足度 (窓口アンケート)	KPI(%)	60	70	80
	実績(%)	—	—	—

コンビニ交付サービス積極活用事業

■最終KPI

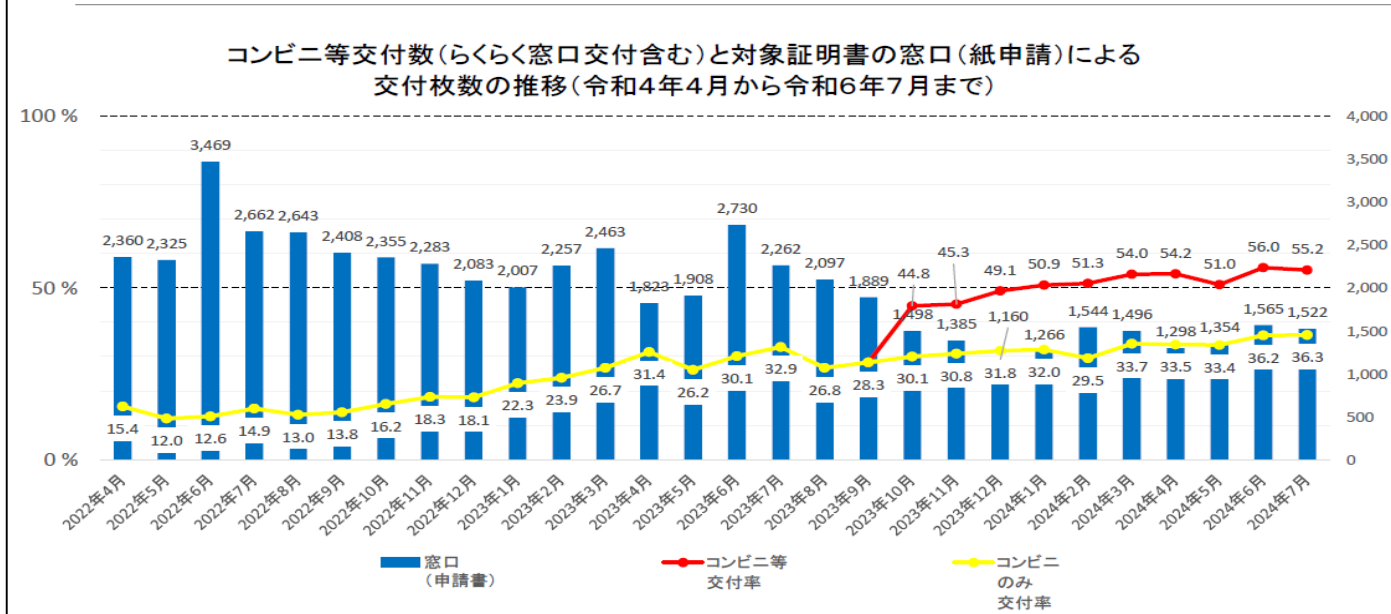
・諸証明のコンビニ交付率

R5目標:20% R5実績:30.57% → **達成**

・市民の満足度(窓口アンケート)

R5目標:60% R5実績:- → **R6年度から実施のため、未計測**

コンビニ等交付等の状況



【プラス評価】

・市民目線による手続きの標準化および手書きの省略化、庁内手続きの簡素化を推進した。

職員採用試験のデジタル化

市単独

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額:550千円(事業費1,154千円)

【事業概要】

- ・多様な人材の確保を図るため、職員採用管理システムを導入し、どこからでも負担感なく採用試験の申込みや採用試験の受験ができる環境を整備する。
- ・WEB面接サービスを導入し、1次試験における面接を録画動画で行うことにより、受験者の負担軽減および採用事務の効率化を図る。

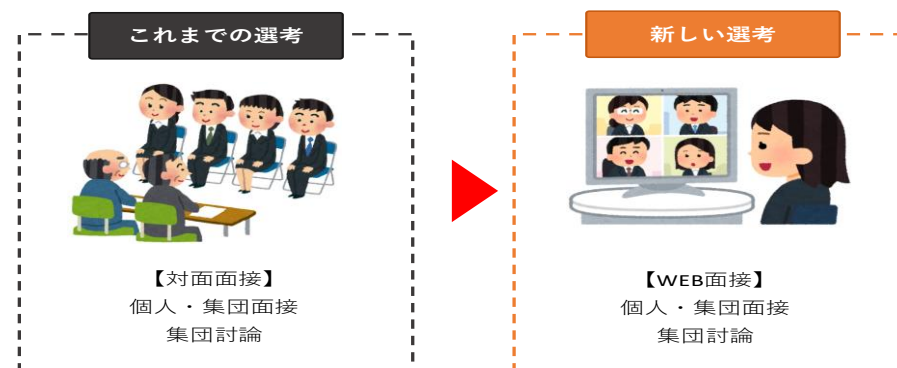
具体サービス

【職員採用管理システム】

- ☐採用試験のWEB申込み
- ☐システムによる受験者の管理
- ☐受験者への一括通知

【WEB面接サービス】

- ☐面接動画作成、登録
- ☐面接動画による選考および選考結果の登録
- ☐選考結果の職員採用管理システムへの連携



重要業績評価指標 (KPI)

※滋賀県全体のKPI (前年比から算出)		R5年度	R6年度	R7年度
職員採用試験応募者数	KPI(人)	120	120	120
	実績(人)	102	—	—
成績開示請求者数	KPI(人)	24	25	26
	実績(人)	69	—	—
職員採用試験の受験辞退率	KPI(%)	5	5	5
	実績(%)	—	—	—
職員採用試験に係る 事務作業時間数	KPI(時間)	1	1	1
	実績(時間)	1	—	—

職員採用試験のデジタル化

■最終KPI

- ・職員採用試験応募者数
R5目標:120人 R5実績:102人 → 未達成
- ・成績開示請求者数
R5目標:24人 R5実績:69人 → 達成
- ・職員採用試験の受験辞退率
R5目標:5% R5実績:- → 未計測(第1次試験 辞退率32.4%、
第1次試験のうちテストセンター試験辞退率 4.2%)
- ・職員採用試験に係る事務作業時間数
R5目標:1時間 R5実績:1時間 → 達成

【プラス評価】

- ・職員採用管理システムを導入することで、どこからでも採用試験の申込や採用試験の受験ができる環境を整え、多様な人材の確保を図った。
- ・WEB面接サービスを導入し、受験者の負担軽減および採用事務の効率化を図った。

【マイナス評価】

- ・システム実装が予定よりも遅れた。

保育所等入園選考業務に係るAI・システム導入事業

市単独

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額：2,799千円（事業費5,907千円）

【事業概要】

- ・保育所等の入園申込書の受付・選考事務が、複雑な内容から対応に時間を要するため、保護者への選考結果の通知が入園申込書類を受付してから、最長2か月程度時間を要する状況となっている。
- ・この課題に対応するため、入所選考業務に係るAI・システムの導入により、事務処理を早め、市民への選考結果の通知の早期発送、保育士の保育等の従事時間拡大による市民サービスの向上に繋げる。

具体サービス

【保育所等AI入園選考システム】

- 本システムの導入により、入園申込書類の受付・選考事務がシステム上で実施可能となるため、これまで手作業により以下の事務に従事していた時間が削減されるため、市民への選考結果の通知を早めることが可能となる。
 - これまでは受付・選考業務の一部を市内各園の職員に依頼していたが、システムの導入により市職員のみでの対応が可能となるため、保育士が業務に従事していた時間を保育等の業務に充てることが可能となり、市民サービスの向上に繋がる。
- システム化される作業
- ・入園申込書類から算出する保育所等への入園の優先度を示す指数の判定、選考作業

重要業績評価指標（KPI）

※滋賀県全体のKPI （前年比から算出）		R5年度	R6年度	R7年度
保護者への早期の選考結果の通知	KPI(時期)	現在の通知時期から現在の通知時期から現在の通知時期から 1週間程度早く通知2週間程度早く通知3週間程度早く通知		
	実績(時期)	—	—	—
保育士の保育従事時間の拡大	KPI(時間(日))	-60(-8日)	-90(-12日)	-120(-15日)
	実績(時間(日))	-120(-15日)	—	—
市の入園募集事務・保育サービス等に関する市民の満足度（アンケート）	KPI(%)	75	80	85
	実績(%)	—	—	—

保育所等入園選考業務に係るAI・システム導入事業

■最終KPI

- ・保護者への選考結果通知の送付早期化
R5目標:1週間程度 R5実績:例年より遅い → **未達成**
- ・保育士の保育従事時間拡大(入園選考事務従事時間削減)
R5目標:-60時間 R5実績:-120時間 → **達成**
- ・市の入園募集事務・保育サービス等に関する市民の満足度(アンケート)
R5目標:75% R5実績:- → **アンケートをR6年度末に実施するため未計測**

【プラス評価】

- ・AI・システムの導入により、入園選考事務に係る保育士等の事務負担を軽減し、保育への従事時間の拡大を図ることができた。

【マイナス評価】

- ・入園申込の方法を原則電子申請としたことにより、申請内容の確認・整理に想定以上の時間を要したため、例年よりも選考通知の送付が遅れた。

よりよい介護サービス提供のための要介護認定事務DX化事業

市単独

デジタル田園都市国家構想交付金 R5年度歳入額：2,215千円（事業費4,462千円）

【事業概要】

・介護サービスを利用するための要介護認定は、申請から結果通知までにかなりの時間がかかっており、住民が適切なサービスを利用したくてもすぐに利用できない状況にある。時間がかかる要因である紙資料のデータ化をDX化によって短縮し、申請から結果通知までの期間を短縮することで、住民が適切な介護サービスを速やかに利用できるようにする。

具体サービス

【訪問調査システム】

- 紙の訪問調査票の代わりに、タブレットで訪問調査票を作成できる。
- 介護保険システムとのデータ連携により、ペーパーレス化が可能になる。
- 紙とデータの変換作業がなくなり、調査票作成時間が短縮できる。



重要業績評価
指標（KPI）

※滋賀県全体のKPI （前年比から算出）		R5年度	R6年度	R7年度
訪問調査システムを活用した 調査件数の割合	KPI（％）	10	90	100
	実績（％）	23	—	—
認定調査員が訪問調査票を 20 日以内で完了させる割合	KPI（％）	75	85	90
	実績（％）	85	—	—
要介護認定申請から要介護認定までの 所要日数	KPI（日）	39	37	35
	実績（日）	46	—	—
要介護認定者数における重度の割合	KPI（％）	40	37	35
	実績（％）	35	—	—

よりよい介護サービス提供のための要介護認定事務DX化事業

■最終KPI

- ・訪問調査システムを活用した調査件数の割合
R5目標:10% R5実績:23% → **達成**
- ・認定調査員が訪問調査票を20日以内に完了させる割合
R5目標:75% R5実績:85% → **達成**
- ・申請から認定まで所要日数
R5目標:39日 R5実績:46日 → **達成**
- ・要介護認定者数 重度割合
R5目標:40% R5実績:35% → **未達成**

【プラス評価】

- ・従来の紙資料のデータ化をDX化によって時間短縮し、申請から結果通知までの期間を短縮することで、適切なサービスをすばやく提供することができた。

【マイナス評価】

- ・本格導入からしばらくは調査員がタブレットに慣れることに時間がかかった。